



## 知床科学委員会 しんぶん

## 海域ワーキンググループ No.9

## 海域ワーキンググループとは

海域ワーキンググループでは、様々な分野の専門家が集まり、漁業、サケ、海棲哺乳類などの生物を総合的に含めた、知床半島の海域の管理について議論しています。

## 令和元（2019）年度の活動内容

知床半島の海域の保全に向けて、令和元（2019）年度は会合を2回開催しました。

- 第1回 令和元（2019）年8月1日 斜里町
- 第2回 令和2（2020）年2月20日 札幌市

<話し合われた主な内容>

## ○知床の海域に関する調査（モニタリング）結果について

平成30（2018）年度から、モニタリング項目を「海洋環境」「魚介類」「海棲哺乳類」「鳥類」「地域社会」の5つの分類に分け、モニタリング結果から知床の海の現状などについて話し合いました。

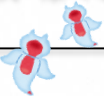
## ○世界遺産委員会決議への対応について

令和元（2019）年7月に開催された第43回ユネスコ世界遺産委員会では、知床の保全状況についての勧告が決議されました。海域については、知床のトドの捕獲数の妥当性など、トドの管理に関する勧告がなされ、対応方針を議論しました。

## 平成30（2018）年度の知床の海について

知床海域の今を知るため、様々な状況を定期的に観察（モニタリング）しています。

## 海洋環境



知床の海の水温については、9月以前は2017年までの平均水温とほぼ同様な季節進行でしたが、10月以降は高めで推移しました。海氷については、2018/19年シーズンは平年と同程度でした。

## 海棲哺乳類



シャチやアザラシやトドの個体数などに大きな増減はありませんでしたが、モニタリングに関するデータが十分ではないため、今後も調査を続けていくとともに、新たなデータの収集に努めていきます。

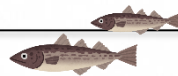
世界遺産関連施設の利用者はここ8年間ほど増加しています。また、外国人観光客や宿泊者数も大幅に増加しており、外国人向けの取組の重要性が増加しています。

遺産地域の人口と就業者数については、減少傾向であり、漁業生産や漁獲金額も横ばいあるいは減少傾向となっています。

## 地域社会



## 魚介類



知床の生物相については、大きな変化はありませんでしたが、温暖化などの影響を調べるため今後もモニタリングを続けていきます。サケについては、前年より若干増加しましたが、引き続き不漁となりました。スケトウダラについては、斜里町の漁獲量は前年より増加した一方、羅臼町では前年より減少しました。スルメイカについては、近年資源量の減少が生じており、羅臼での漁獲量は数百トンレベルまで激減しました。

希少種のケイマフリの個体数は現状維持されていますが、一方で、オオセグロカモメ、ウミウは世界遺産登録時に比べて著しく数が減っており、近年生産力（巣立幼鳥数/繁殖つがい数）が上昇しているオジロワシや、ヒグマの影響が懸念されています。海ワシ類の飛来数や繁殖数は、世界遺産登録時と比べ横ばいとなっており、適正な保護管理が行われていることが分かります。

## 海鳥

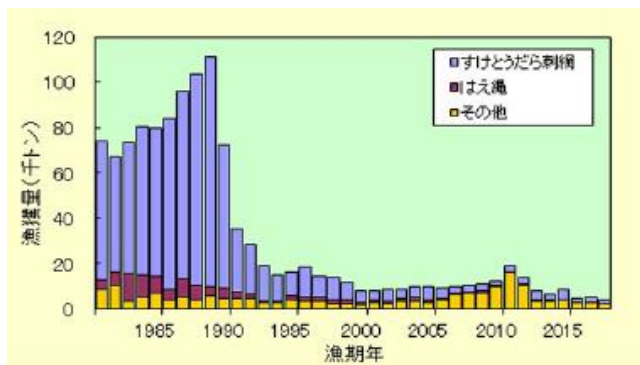


# モニタリング結果からわかること（スケトウダラについて）

## スケトウダラの漁獲の動向

根室海峡のスケトウダラの漁獲量は、1989年の11.1万トンを超えて最高に、その後急激に減少しており、2000年に1.0万トンを下回りました。

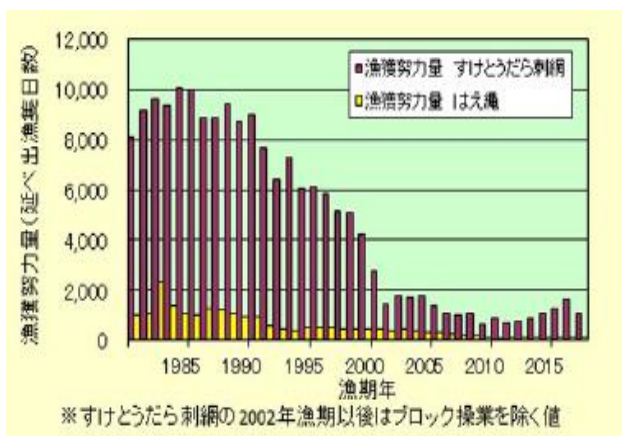
その後緩やかに増加しましたが、2012年以後再び減少しており、2018年は過去最低の3,880トンでした。



上図：スケトウダラの漁獲量

出典：水産庁

「令和元年度我が国周辺水域の資源評価ダイジェスト版」



上図：スケトウダラの漁獲努力量

出典：水産庁

「令和元年度我が国周辺水域の資源評価ダイジェスト版」

安定した漁業を持続的に維持していくために、漁業者による自主規制など資源保護への取り組みなどもあり、低位ながらも資源は横ばいで維持されています。

今後も引き続きモニタリングを継続していくとともに、根室海峡全体におけるスケトウダラの保全のためには、北海道本島側と国後島側双方における漁獲量などの漁業情報や資源状況などについて、日露両国における情報の共有化を図っていく必要があります。



## 海域WG座長コラム ～知床海域の今～

知床半島周辺海域の海洋環境と多様な海洋生物のモニタリングを通して、何らかの変化などがありましたら、海域WGが責任をもって皆さまに情報を提供して行きます。サケやスルメイカの来遊の減少などは、知床からはるかに離れた海の変化を反映していることがあります。また、地球温暖化に伴って知床の海でも漁獲対象種に変化が起きる可能性もあります。未来永劫まで知床の沿岸漁業の繁栄が続きますよう、これからも宜しくお願い致します。（海域WG座長：桜井泰憲）

会議の内容をもっと知りたい方はこちら

知床データセンター  
<http://dc.shiretoko-whc.com/>

これまでのモニタリング結果や、会合での資料なども  
 ご覧いただくことができます。

### ◆お問い合わせ先◆

北海道環境生活部環境局生物多様性保全課  
 〒060-8588  
 札幌市中央区北3条西6丁目  
 電話 011-231-4111 (代)  
 内線 24-357

<令和2年(2020年)3月発行>

平成16年から通算で8年間、網走の道東内水面室(現在は、中標津町の道東センターに統合)で過ごしました。最近とは違う気候の変化を肌で感じるようになり、北海道の秋サケ資源は、昭和50年代のレベリングまで低迷しています。知床半島のサケ・マス資源と漁業の維持のために努力して行きたいと思えます。



委員の  
 隼野です

地方独立行政法人北海道立総合研究機構さけます・内水面水産試験場さけます資源部長。  
 サケ・マス資源の回復と安定を目指して日々研究に取り組んでいます。